囲碁と水彩画

大和田囲碁同好会　　原田朋栄

私が大和田同好会の定例会に通うようになって 2 年になります。コロナ禍の中、3 密厳守の状況下でありますが、諸先輩の棋力の強さに驚きながら、一局一局、指導されながら、今に至っています。私は定年後に始めた色々な趣味の中で、ギターを演奏し水彩画をこれまで 400 枚程度描いて、年賀状や暑中見舞い状に活用しています。ですが未だ満足に足るものは無く、上を目指して模索しています。老後の手習い事は骨が折れ、根気と体力が要るものです。

囲碁は、相手によって千差万別の打ち方があり、悩みながら凌ぐ楽しさは、娯楽の中で最高です。ところで、最近囲碁の歴史に関係する書物を読んで見つけた、特に面白い話題を紹介します。趣味である水彩画のうち、囲碁対局の絵を探していましたらありました。日蓮の法華経を信奉していた絵師である狩野永徳、長谷川等伯、尾形光琳、葛飾北斎の絵に出会い、特に狩野永徳の囲碁対局画がそれでした。

当時のこうした有名な画家に対し、革新的な刺激を与えた思想背景がありました。それは現実の変革の中にこそ［仏の言わんとする心］を見いだすことができるということです。そのことを想像し、アレンジして描いてみました。ご笑覧ください。

また、日蓮と弟子の吉祥丸、後の日朗との囲碁棋譜が日本最古のものとして残っています。後世のものではないかという説もあります。正倉院には古き碁盤が保存されています。さらに戦国～江戸時代では、日海、後の本因坊算砂は信長、秀吉、家康の囲碁の師であり、対局では 3 人に対し５子を置かせて打っていたことから、この３人は、アマの四～五段程度ではなかったかとも推察されています。2000 年の歴史において、囲碁の歴史では広く庶民の文化を高めた時代や、徳川時代に 10 年間も続いたという御前試合や厳しい家元の争奪戦もあったことに思いを馳せ，歴史を偲びながら、これからも一局一局、楽しんで頑張って参ります。

参考文献　・百科事典ウィキペディア、[囲碁の歴史]より
・河野元昭、[琳派 響きあう美]より